

増えてきたノンリニア編集派 難しいのに、皆よくやるなあ！

会長 合原 一夫

このところ例会作品に、いかにもノンリニア編集しました、と明らかに判るような作品が激増してきました。今までオーバーラップなどのテクニックなど皆無だった人が、突然、全編これオーバーラップや従来の手法では出来なかった頁めくり等の特殊効果の連続、なんて作品が出てくるので、はっきりと”転換”されたことが判るわけです。二次会の話題もコンピューターなどハードの話や操作の疑問点などの情報交換の話題ばかりで、ノンリニアに背を向けて他人事と思っていた私など、楽しいはずの二次会にもついて行けません。私も遂にインターネットの情報が欲しいとの主旨をうたい文句で、それだけではもったいないから、ノンリニアでもかじってみようか、などと理屈をこねながら、導入の検討を始める始末。まさに一年前までは考えられなかった時代の流れを感じます。ですが、映像はあくまで作品の質が問われます。特殊効果もここぞというときに効果的に使ってこそ威力を発揮します。記録作品などに本来はオーバーラップは必ずしも必要ないのです。簡単に出来るからと使いすぎは逆効果になることを心掛けていかねばなりません。

熟年組になって、なんで今頃からコンピューターに頭を痛めなければならないのか、ブツブツ云いながらも狭い我が部屋の片付けと模様替えに汗を流している今日この頃です。私のノンリニア作品、はたして年内に実現するのかどうか、神のみぞ知ることです。

ノンリニアをやっている人に聞けば、編集が簡単、手直しが容易、音の編集がとてもやりやすい等々、いいことづくめです。そこまでのレベルに到達するのと我が寿命とのかけっこの様にも思えます。それにしても、会員諸氏、よくやるなあ、参りました！

8月例会のお知らせ

8月例会は25日(第4土曜日)午後6時より。阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3F)でで開催します。残暑厳しいときですが、会場には冷房が効いていて、しばし避暑気分で居られます。どうぞ皆様のお越をお待ちしています。作品のほうもよろしく。なお研究会は9月です。

東京アマチュア映像祭

全国ビデオコンテストに入賞

下記の方々が、難関を乗り越えて上記コンテストに入賞されました。おめでとうございます。

- | | | | | |
|-----|-----------|----|------|--------|
| ・入賞 | 聖なる河 | 合原 | 一夫さん | 9分 50秒 |
| ・入選 | 眼から鱗(うろこ) | 安居 | 良枝さん | 8分 30秒 |

7月例会レポート

7月例会は28日に行われましたが、猛暑にも拘わらず、何と31名の会員さんが出席され、補助椅子を2回にわたって他から調達するという盛会ぶりで、作品も15本というOVC(大阪ビデオクラブ)並の作品数で驚きました。皆さんが月一度の例会を楽しみにして出席して下さる様子がしのばれて嬉しい限りです。今月の司会は有村さん、書記、関さん、デッキ係、渡辺さんと奥さん、受付兼照明係に増池さんと安居良枝さんの受け持ちで会を進行しました。今月は珍しく西野さんが出席されました。

■出席者：江藤、藤原、安居夫妻、今井、奥、西野、渡辺、森、有村、関、西村、片山、前田、森下、森口、玉井、増池、河合、金子、合原、江村、宮崎、吉岡、久一、那須、岡本、上総、勝、森田、中尾の31氏(敬称略)

■上映作品(今月の講評は関世話役です)

1. 星に願いを 4分 安居良枝さん

七夕の夜だろうか、南港ATCで催されたライトショー。無数のシャボン玉が飛び交い、さまざまな色の点滅でライトアップされたデコレーションにレーザー光線が映像を結ぶ、まさにファンタジックの世界。若奥さんにエレクトーンで演奏してもらったというこの作品の題名にもなったディズニー映画の曲がまた絶妙。ラストに子供たちがシャボン玉と戯れるシルエットシーンが印象に残った反面、ショーには目もくれず、ケイタイのメールに懸命な若者の場面はいただけない。

2. 体験ミュージアム 7分 安居利次さん

天六に最近できた市立住まい情報センター内の公開施設。江戸時代の大阪の庶民の町屋が再現されている。当時長屋の借家人たちは建具や畳は自前だったそう。それは夜逃げをし難くするためとは。何とも落語の世界のようでおもしろい。今回の作者は現物をさりりと紹介しただけで、いつもの辛口の論評は聞けなかった。膨大な赤字を抱えながらまたもや無駄遣い?と私は思ったが。

3. 上高地は晴れ 5分 今井羨美さん

冬期閉鎖が解けて間もない5月の上高地は、山々はもちろん河童橋もまだ雪景色。にもかかわらず、やっぱり人気があるのか繁華街並の雑踏ぶりにおどろかされた。この時期、墨絵のような映像が撮れると思うのだが、雪で歩けなかったのか大正池の絵はない。雪が降る映像にタイトルが「晴れ」とでてくるのはおかしいと会場から評があったが、同感。ひと工夫を。

4. スタークルーズ旅行 15分 西野譲治さん

結婚21周年記念の副題がつく。夜、神戸を出て翌朝博多、そして釜山、別府と帰ってくる5日間の豪華クルーズ。寄港先各地の風景も出てくるがそれは二の次。メインは見る者も啞然とするほど仲の良いご夫婦の映像。美人の奥さんはスタイルも日本人ばなれ。映画「タイタニック」を模したシーンに、筆者はむしろ「美女と野獣」を連想した、とはここだけの話。お仕事柄オーストラリアの人々と親交が長いこともあって愛情表現は西洋式。我々の年代にこの15分はちょっと身の置場に困った。

5. 愛染さん 5分45秒 渡辺雄史さん
 大阪の夏祭りのトップを飾る愛染さん。愛染娘が宝恵箆で練り歩くもよう、境内で縁起物のを売る快活な姿を精力的に迫っている。ひと昔まえの宝恵箆にはたしか売れっ子の芸者が乗っていたが。これも時代のながれか。
 BGMの「愛染かずら」はまだしも「マイ・ウエイ」は唐突だった。
6. 地獄 7分 有村 博さん
 題名でドキッとさせられたが、なんのことはない別府の地獄めぐり。現場に立つ説明の看板や造作物などはいっさい除き「地獄」の雰囲気づくりに苦心のあとは伺えるが、撮り方がごく平凡なのでたいした迫力は無い。そこに京都映画村の恐竜を流用するなどはお愛嬌だった。「音楽畑・EXTRA」の「縁」(Eニシ)をまるごと使っており、それで7分の長さになった。この内容なら5分が妥当。
 (筆者は例会でこの作品の曲「縁」を「修二会」(シュニ)と言いましたが、同じCD盤の中にある曲なので勘違いしました。訂正します)
7. 朝の斜(かたむき) 4分35秒 片山尚子さん
 再び洗練されたイメージ映像。といっても先月とはややおもむきが異なる。前作は原色が多く比較的シリアスな画面もあったが、これは淡い色とソフトなタッチで統一されており、さりげなく置かれた帽子がそのソフトイメージを更に膨らませる要素となっている。作者のもつ映像感覚はだれでも真似のできるものではない。たいせつに育ててほしい。
8. 奇松怪石 5分20秒 関 剛(筆者)
 およそ10年前、中国・黄山に登ったときの映像。たまたまPCに入れてみたらHi8特有のノイズが目立たなくなり輪郭がすっきりした感じだったので再編集を試みたもの。
9. ザ・ダンジリ 9分30秒 前田茂夫さん
 そーりゃ、そーりゃの掛け声勇ましく町を駆け抜けるだんじり。やりまわしの辻ではカメラに迫ってくるド迫力の映像。そして昼の勇壮な姿から一変、夜はたくさんの提灯で飾られ、子供も混じって綱を曳きながら優雅に町を練り歩く。「どこで暮らしていてもこの日だけは必ず帰ってくる」「泉州の人々にとってかけがえのない祭り」だんじりの一人称にみたてた泉州弁?のナレーションがまた気が利いていておもしろい。
 人が多く、撮影に種々制約がある岸和田を避けて貝塚でカメラを構えたと言う作者。これからだんじりを撮ろうと考えている方には参考になったと思う。
10. 舟屋の並ぶ湊町 6分25秒 森口吉正さん
 漁を終えた舟が帰ってきて水揚げ場は急に忙しくなった。大物はほとんど見られない。底引き網のせいか魚以外に泥や石ころ、ゴミまで交ざっているようだったが選り分けるのもたいへんだらう。最近の資源枯渇の縮図を見るような気がした。田圃を耕す農作業の風景があったが、舟屋の伊根とは無関係に見て取れる。作者の主張が判らないわけではないが、ここは省略したほうがいい。
11. クメール人の踊り「アプサラ」 5分05秒 河合源七郎さん
 アンコールワットは整備され、着飾った踊り子たちが優雅に舞う。つい10年ほど前まで内戦のただ中であつたと思えない平和な光景だ。説明や音楽はワッシュョイ2000で収録したものを使用。とあつたが、会場の壁に反響してやっぱり不自然。どうしてご自身の声や現地音はだめなんだろう、よくわからない。
12. 5月、美瑛の風景 8分 合原一夫さん
 田圃の田植の光景。傍らで子供たちの草摘み。小川が流れ、林の向こうに雪を頂いた山々が見える。山村のどこにでもある風景が長々と続き、美瑛の美しい幾何学模様はなかなか出てこない。数頭の牛が草を食むころにやっとそれらしくなり、つぎに見たものは赤い屋根の見える起伏の丘の地肌がむき出しになったシーンだった。訪れる時期を間違っただらう。旅行作品の名人としては

これを作品化するのにあまり乗り気ではなかったのではないか。それが証拠にいつもの合原節がない。だがそれなりに時間と費用はかかった。わざわざ題名を「5月」と括った作者の心情がなんだか判るような気がする。

13. 子供たちの夏祭り 7分05秒 江村一郎さん

子供会の世話をする岡本さんの依頼を受けて撮影したその一部という。作者独特のすどいカメラワークが随所にてきて、つつい引き込まれてしまった。本編は行事の記録だからもっと長く、おそらく子供が主体なんだろうがこれは対象を限定した作りにはなっていない。題名を変えた方がいいのでは。

14. 都会の空間 5分15秒 吉岡貞夫さん

仕事のついでに立ち寄った横浜のミナトミライ。建物や設備のデザイン、ショーウィンドの飾り付けまで、すべて若者を意識したものになっている。大阪に例えば南港のATCというところか。平日で雨の悪条件もかさなって人影はまばら。初物にはワンサと押し掛けるが、移り気の多い若者をいつまで引き付けていられるか疑問。音楽がいやに暗いのもそんな連想をさせる原因か。

15. スイスの旅 PART1 サンモリッツ 5分25秒 那須典彦さん

山と町と湖がバランスよく構成された実にきれいな映像。しかし作品としてはとりたてて言うほどの特色はない。どこに行っても確実にきれいな映像を撮ってくる。それが作者の特色かもしれないが…。ときどき超アップから、いきなり超ロングに切り替わってショックを受けることがあり、唯一の欠点。

■インターネット情報

これまでにもまん延した主なウイルス名

	発見時期	特徴など
メリッサ	1999年3月	「Outlook」のユーザーには、アドレス帳にある複数ユーザーに勝手に送信。電子メールを使って感染を広げる最初のタイプ
ラブ・ウイルス	2000年5月4日	「LOVE-LETTER-FOR-YOU」というメールの添付ファイルを実行すると感染。被害総額は過去最悪の100億ドルともいわれる
マトリックス	2000年9月上旬	メール送信時に、ウイルスファイルを添付した別のメールを自動送信。日本では2000年末に大発生した
サーカム	2001年7月17日	外部に勝手にファイルを送付するため情報漏えいの危険性が高い

インターネットの普及と拡大は、私達にとって大変有益で楽しみであり、嬉しいことですが、困ったことにウイルスの被害もまた比例して拡がるということです。7月17日に発見された「サーカム」という新種が現在非常に猛威をふるっています。私個人のPCには、幸いまだ送られてきていませんが、勤務先のPCには、数日おきに送られてきます。ウイルスワクチンを入れているので、その都度警報を発してくるので、削除しています。隣の海外関係の部署には毎日飛び込んできています。不審なメールで添付ファイルがついているメールは100%ウイルスと考えて直ちに削除してください。「サーカム」には「Hi! How are you.」という本文があります。最近では日本語の本文もあるようです。皆さん、くれぐれもご用心を!!

(表：日経 2001.8.1 朝刊より転載)

紙面が限られているのでここには書き切れませんが、インターネットは紙面数に制限がないので、ここにはない情報をネット版には先月号から掲載しています。インターネットをやっておられる方は、覗いてみてください。

VIDEO 7月のインターネット月例会作品紹介

「星に願いを」安居良枝作品(画像をクリックしてください、スタートします。)

No	Real Video5.0	for ISDN modem	1316KB 4分54秒
	<p>星に願いを</p> <p>作:やすいよしえ</p>		